

# WCRP

5

2023

May

No. 523

World Conference of Religions for Peace Japan



女性部会 円応教本部にて

こころの扉 — 「超越の声と深淵の音」 ホアン・マシア .....	2
平和研究所 合宿 / 第1回研究会 .....	3
女性部会 円応教本部を訪問 .....	4
タケノコ掘り de 森づくり .....	5
シリアとアフガニスタンの難民留学生 歓迎会を開催 .....	5
WCRP日本委員会 トルコ・シリア大地震対応 .....	6
フィリピンのストリートチルドレンをゼロにするキャンペーン実施中 .....	6
実践宗教学寄附講座の終了についてのご報告 .....	7
WCRP国際委員会が国連・女性の地位委員会 公式合同サイドイベントを開催 .....	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動 .....	8



## 「超越の声と深淵の音」

自我の表面から自己の深みへ

うわべの世界しか見えないとき、私たちは東西古今を分けて考えがちである。深みの次元にめぐめたら、自己といのちの神秘に気がつき、東西古今のあらゆる差や違いを超えて「全・中・一・心」を察知させてくれる超越の声からよびかけられ、無限のいのちの世界につれていかれ、「もう一つの東洋」または「もう一つの西洋」が発見されることが可能になってくるのである。東西古今のうわべの次元において自我中心の世界の中に生きるるとき、自己のいのちにめぐめさせる無限のいのちの音が聴こえてこない。自我をこえて自己にめぐめさせる超越のいのちの音が我々を常によびかけている。四つの方法でその

WCRP日本委員会  
平和研究所  
上智大学  
元 教授

ホアン・マシア



声が聴けるようになる。

第一の方法は、自我の圧力のため困っており、痛んでいる他者の顔や困っており、痛んでいる大自然の叫びに心の耳を傾ける慈悲の道である。それは無限の慈悲をひきおこす苦しみからのよびかけである。

第二の方法は、無限の「有・無」にあこがれる究極的な問いを追求し続ける道である。そうした究極的な問いが根差している自己の深みから無限の地平まで広がる志向性が発揮される。第三の方法は、自我の雑音がきえて無限にいやしを与える聖なるものからの問いかけに耳を傾ける道である。そのとき瞑想の沈黙の内に生の異議をあたえられる。

第四の方法はかなたからの超越の声を聴かせてくれる聖書やお経の信仰古典の言葉を解き明かす共同体からの信仰の遺産が伝わる道である。

表面に留まりがちな思考によっていわゆる東洋の無と西洋の有が分けられてしまいい、愛と憎み、戦争と平和、時と永遠のあいだに緊張が高まるが、深みの次元にめぐめさせていただければ無限の神秘のうちにつつまれて永遠の今と有か無かをえらばない「無限の有・無」または「無限の空」ともよばれうる根源の場に錨をおろして根本の安定が見いだされる。

以上の四つの道、すなわち、慈悲の倫理と究極的な問の形而上学と沈黙の瞑想と信仰伝達の証をおして自我から出て自己にめぐめさせる心の声に耳を傾けると、私たちは無限の愛と、無限の有・無、そして無限の沈黙の空・心と、無限の命の言葉に全身を傾けて自己といのちの奥義の啓示を与えられる。

もうひとつの東洋、永遠の東西  
そうした超越からの呼びかけが聴こえる場をつくっていきたいものである。

他者の顔から学ぶ倫理、究極的な問いから学ぶ形而上学、禅の沈黙から学ぶ霊性、聖人から学ぶ伝道の言葉を聴き、読み、唱えつつつづきたい。そしてすぐれた芸術作品の場合この四つの道が要約されうることに気がつきたい。

そこで私は選ぶ美と永遠のいのちの表現は、ミケランジェロのピエタ、ベラスケスのキリスト像、中宮寺の如意輪菩薩である。私はこの三つを明朗さと慈悲深さの最高潮にある芸術作品として賞賛する。しかしここで私は、観音は東洋の物であるとか、キリストは西洋の者であるとはいいたくはない。これら三つの像は、私にとって平和と永遠のいのちを表現するものである。これらは深い意味での「東洋的」という形容詞に値するであろう。しかしながら、地理的、歴史的な意味での東洋ではなく、「もう一つの東洋」、表面的な西洋と東洋の両者の自我から脱皮をはかり、両者の自己の深みの次元に没入して見いだされる「もう一つの東洋・西洋」なのだ。長年の出会いをおして私は確信するようになったのである。

## 平和研究所 合宿

平和研究所は3月30、31の両日、静岡県熱海市内のホテルで合宿を開いた。同所員やオプザーバーら約10人が参加した。

合宿では、平和研究所の西原廉太副所長（立教大学総長）の研究発表、「平和大学講座（3月14日）」を受けての討論、所員会議などが行われた。



西原副所長は『キリスト教とアイヌ民族の邂逅をめぐって―バチエラーのアイヌ伝道と聖公会のアイヌ観を中心に―』をテーマに発表。英国人聖公会宣教師であったジョン・バチエラー（1854年～1944年）によるアイヌ伝道の足跡を振り返った。

バチエラーは自叙伝の中で、アイヌ民族のために働く動機の一つに「神さまの慈愛と御憐みと御光とを覚えさせたい」ことを挙げており、「未開」のアイヌ民族にキリスト教を伝え、そのことによってアイヌ民族を救済することを基本的な伝道方針にしていた。これは同時に、アイヌの世界観や自然観を極端に低いものとみなし、アイヌの信仰を否定したこともあった。

一方、抑圧されている民族として認識したうえでアイヌに関心を注いだことは評価されるべきである、と西原副所長は語った。事実、バチエラーはアイヌ民族の地位向

上を図ろうと、アイヌ児童教育施設やアイヌ学校、無料アイヌ治療病室などさまざまな教育・福祉施設を設立している。

しかし、当時の日本人聖職者や信徒たちはアイヌ民族の立場に立って活動することはなく、日本政府の同化支配政策と同様の姿勢を取り続け、教会でのアイヌ語の使用禁止などをバチエラーに要求していた。こうした点に、バチエラーの活動の限界性が垣間見えると指摘した。

西原副所長は、「先住民との実質的な共生関係を構築するうえで、キリスト教とアイヌ民族の接触をめぐってのいいねいな検証は、重要な視座を提供するはずである」と語った。

### 平和研究所 第1回研究会

#### 篠原祥哲 WCRP 日本委員会

#### 事務局長

令和5年度の第1回研究会は4月25日、オンラインで開催され、篠原祥哲 WCRP 日本委員会事務局長が『WCRPと平和研究所』と題して発表した。

篠原事務局長はまず、「WCRPは異なる宗教が共通の行動を起こそうという組織」と明言。そして、WCRPの使命と役割は「紛争を解決する」「平和を構築する」「持続可能な開発を推進する」ことだと語った。

また、現在のWCRP国際ネットワークの六つの共通目標として、①平和で、公正で、包摂的な社会を推進する②ジェンダー平等を推進する③持続可能な環境を育む④思想・良心・宗教の自由を擁護する⑤諸宗教教育を強化する⑥宗教協力とグローバル・パートナーシップを育てる――を示した。

WCRPの理念は、①諸宗教が排他独善的なあり方を深く反省し、寛容の精神に基づく積極的な対話を推進する②諸宗教間の対話と相互理解から生まれる叡智を結集し、平和のための宗教協力を行う③国際機関および国内外を問わず、平和を志す社会のあらゆる部門の各界と協力し、平和を阻害する地球的諸課題の解決を目指して、積極的に協働する④地球的視野で行動できる人づくりを目指し、宗教に根ざした平和教育と啓発活動を行う――ことを掲げた。

一方、1977年に創設された平和研究所は、WCRP日本委員会の目的と事業の達成に貢献するため、宗教と平和に関する研究を、宗教的・学際的・国際的に推進する調査研究機関として設置されたと述べた。さらに、平和研究所の期待される役割として、世界の宗教者・研究者との「ネットワーキング」「提言・アドボカシー」「教育・啓発活動」「人道支援」を挙げた。

## 女性部会 円応教本部を訪問

女性部会は4月13、14の両日、円応教本部（兵庫県丹波市）を訪問し、宗教別学習会を開催した。女性部会は毎年、加盟教団及び諸宗教の施設を訪問し、その歴史や教えを学ぶことを通して、相互理解を深め、諸宗教対話やいのちの尊厳についての取り組みを深めることを目的に同学習会を実施している。

今回は9人の女性部会委員が参加。現地に足を運んでの開催は約3年ぶりとなった。

13日午後、JR新神戸駅に集合した一行は、円応教の送迎バスで本部へ移動。円応教深田充啓教主、深田静子ご令室の出迎えを受け、満開に咲いた八重桜を眺めながら、野点のもてなしを受けた。夕方には修法殿の練成室で委員会を行い、2023年度の



円応教本部に咲く満開の八重桜

女性部会テーマに基づく活動計画（いのちに関する学習会・ワークショップなど、今後の活動を中心に話し合った。14日は、円応教の歴史を振り返る映像を鑑賞し、藤

井庸佐責任役員より円応教の教え、由来について講義を受けた。

円応教の教えの根本は、人が喜び、楽しまれるために生かされているという自覚を持ち、『世の中の道具』となって働くことを実践していく教えと教示を受けた。

それらの教えが説かれた三つの大切な本として、「御教祖様御遺文集」「円応教経典」「教義概要」があり、教義概要には、「教義の原展」「立教の本義」「まこと」「誠」「愛」「善」「陰の行」が教義の要点として示されているという。

その後、本殿へ移動し、説明を受けた。また、教祖様の遺骸が祭られている「御教祖様御墓所」、歴代の教主が祭られている「教主霊廟」、教祖に直接仕えた先達方が祭られている「供養塔」、1階は霊殿、2階には遺品が展示されている「慈照殿」、聖地から出土した古代墳墓のみ霊を祭る「大地の御親」を順に巡った。



修法殿でのご講義



本殿



説明を受けながら聖地を巡る委員

### ○参加者の感想

森脇友紀子部長（カトリック東京大司教区アレルヤ会会長）  
「素晴らしい自然の中で、2日間にわたり宗教別学習会ができたことに感謝しております。人の生き方で1番大切な事を教えていただきました。ひとりひとりの信仰に基づく心のこもったおもてなしを忘れずにいたいと感じました」

河田尚子副部長（アル・アマーナ代表）  
「1日目は桜をめでたり、交流をしたり、2日目は教えを勉強させていただきました。円応教の本部にはまるでモスクのような建物があったり、教えの中でもイスラームに通じるものがあったりと、大変身近に感じさせていただきました」

和田恵久巳委員（立正佼成会総務部長）  
「円応教の皆さまの心からのおもてなしに心から感動しました。そしてそれが信仰に基づいていること。生きていくうえで信仰があることは大事であり、豊かなものにしてくれるのだと実感しました」

## タケノコ掘り de 森づくり

気候危機タスクフォースは4月16日、「いのちの森プロジェクト」の一環として、埼玉県所沢市のWCRRPいのちの森で「タケノコ掘り de 森づくり」を開催した。これに所沢市の藤本正人市長をはじめ、親子連れなど約60人が参加した。



藤本市長も大物をゲット



はじめに、同タスクフォースの蘭田稔運営委員（秩父神社名誉宮司）があいさつし、タケノコ掘りを通して里山を育てる機会に触れ、「万物のいのち」を感じてほしいと語った。  
今年は何年に比べ、タケノコの数が少ないのではあったが、ときおり「大物」を掘り出した子どもたちの歓声が森に響いた。

## シリアとアフガニスタンの

### 難民留学生 歓迎会を開催

シリアとアフガニスタンの難民留学生たちが3月末、日本各地から東京に集結し、再会の集いとオリエンテーションを実施した。今年度、来日したのはシリア人4人とアフガニスタン人5人。

歓迎会に先立ち、すでに留学している先輩学生たちはワークショップに参加。自分たちの勉強面や生活面の課題を出し合い、難民留学生受け入れプログラムの改善点や新たに来日する学生へのオリエンテーションの計画や準備について話し合った。

翌日夜には、新留学生の歓迎会とともに、今年度進学や就職が決まった学生の祝賀会も行われた。久しぶりに行われた対面での出会いと再会に、学生や支援者の表情は笑顔であふれていた。



オリエンテーション・歓迎会を前に話し合いを行う学生たち

## WCRP日本委員会 トルコ・シリア大地震対応

2月6日に発生したトルコ・シリア大地震に対し、WCRP日本委員会は、被災者支援のための勸募金の呼びかけを行った。呼びかけ期間の3月31日までに合計2968万7161円の浄財が寄せられた。

早急に被災者救援を行うべく、WCRP日本委員会は災害対応タスクフォースが中心となり、被災地への支援を検討・実施した。支援にあたっては、WCRPの国際ネットワークや現地で活動を展開するNGOと協議を重ねて支援先を決定した。4月中旬に支援を行ったのは、次の5つの団体。

1. Order Organization for Cooperation and Development (トルコ(NGO)):  
5万米ドル(669万2000円)(避難所の運営、食料、物品配布、子どもへの教育支援)
2. 東京ジャーミイ・ディヤーナトルコ文化センター…300万円(被災者への食糧、住居支援。被災した子どもの保護活動)
3. 認定NPO法人難民を助ける会…300万円(トルコの避難所のほか、支援

の手が届きにくい農村部を中心に、毛布やおむつ、食料、下着などの生活必需品の配布)

4. 特定NPO法人パルシック…100万円(政府の支援が届きにくいシリア難民に、おむつなどの生活用品を配布。シリア北部において被災地で手術や透析に使う医療品を届け、毛布やストローなどを配布)

5. シリア地震被災者支援キャンペーン「サダーカ・イニシアチブ」…100万円(シリアのアレッポやラタキア、ハマ等の地域で、食料や医薬品の配布や現地NGOへの活動支援)

WCRP日本委員会のトルコ・シリア大地震支援は、地震発生直後に緊急支援を行ったWhite Helmets(ホワイトヘルメット)



東京ジャーミイ・ディヤーナトルコ文化センターにおける支援金贈呈

100万円とMolham Volunteer Team(モルハムボランティアチーム)100万円を合わせ、これまでに合計1669万2000円となった。

### フィリピンのストリートチルドレンを ゼロにするキャンペーン実施中

アジア宗教者平和会議(ACRP)東京とアジア・コミュニティ・センター21(ACC21)は、「路上で暮らす子どもがいない未来へーフィリピンのストリートチルドレン37万人をZEROにしよう!」のクラウドファンディングを実施している。

4月15日には、このキャンペーンの啓発イベントがオンラインで開催され、現地NGO代表や現在は政治家を志している元ストリートチルドレンの青年が出演。厳しい現状を克服するためには、国際社会の支援が必要であると訴えた。ACRPは、現地の人々と連帯し、この問題をグローバルな視点で捉え、アジアの宗教ネットワークを通して、状況の改善に向けて動き出す。キャンペーンは5月31日まで実施される。詳細は、ACRPホームページまで。

## 実践宗教学寄附講座の終了

### 12回分の報告



東北大学大学院  
文学研究科  
高橋原教授

臨床宗教師養成を目的に2012年4月、東北大学大学院文学研究科に設置

された実践宗教学寄附講座が、2023年3月をもって終了の運びとなりましたので、この11年間の成果を振り返りつつ、今後の課題や展望を述べたいと思います。

臨床宗教師とは、諸宗教の協力の下で被災地、医療・福祉施設などの公共空間で心のケアを提供する宗教者ですが、東日本大震災後の宗教者による被災者支援の経験が大きなきっかけとなり、東北大学で養成が開始されました。国立大学と宗教界がタッグを組んだこの事業は、多くのメディアに盛んに取り上げられて注目を浴びました。

しかし、キリスト教系団体による支援を中心とした資金計画が早々に行き詰まり、講座の維持が困難な状況になった時に、WCRP日本委員会が支援に手を挙げてくださったおかげで、3年を超えて事業を継続することができました。これによって、宗教宗派の垣根を越えて、宗教者による新

しい社会貢献の形を作っていこうという機運がさらに盛り上がったと考えています。ここにあらためて感謝を申し上げます。

WCRP日本委員会青年部会の方々も迎え入れて石巻市の被災地で臨床宗教師研修が始まりましたが、期待と不安の入り混じった手探りの出発であったように記憶しています。その後、やはり地震の被害に見舞

われた熊本市における第12回研修（2017年）が最終回となりましたが、この間、全国から参加した、のべ181人の宗教者が修了証を受け取りました。医療・福祉の現場で活動する臨床宗教師も現れはじめ、宗教者が宗教施設を出て、多くの人々の苦難や悲嘆に向き合う姿は、宗教の原点を問



旧北上川河畔での行脚  
(第1回臨床宗教師研修2012年10月)

いかける新しいメッセージとなったのではないのでしょうか。

このような中で、臨床宗教師養成プログラムは全国の七つの大学へと広がり、2016年に日本臨床宗教師会が発足し、

2018年には認定臨床宗教師の資格制度がスタートしたことは、実践宗教学寄附講座開設以来の最大の成果だと言えるでしょう。認定者数は現在までに250人ほどを数えており、全国7ブロックの地域臨床宗教師会を拠点に、さまざまな場所で臨床宗教師が活動を展開しています。

東北大学では、2019年に大学院文学研究科に死生学・実践宗教学専攻分野が開設され、社会人対象の履修証明プログラム「臨床宗教学養講座」「臨床宗教学実践講座」によって、臨床宗教師（およびスピリチュアルケア師）の養成を引き継いでいます。

世の誰も知らなかった「臨床宗教師」という言葉が、10年あまりの短期間に多方面に浸透していったことは想定外の大成功であったと言えますが、さらに想定外のコロナ禍が臨床宗教師の活動にブレーキをかけてしまったことも事実です。この3年間、さまざまな施設での傾聴活動がほぼ休止してしまい、多くの臨床宗教師は活動場所を失っています。ポスト・コロナの日本社会において、再び臨床宗教師が広く活動を展開していけるかどうか。さまざまな課題が考えられますが、今後も多くの方々のご理解をいただきながら進んでいく所存です。

## WCRP国際委員会が国連・女性の地位委員会公式合同サイドイベントを開催

WCRP国際委員会は3月16日、国連・ジェノサイド防止局、女性に対する暴力に関する特別報告者、南アフリカ国連代表部との共催で、第66回女性の地位委員会（CSW）公式合同サイドイベントを開催した。女性の地位委員会（CSW）は、国連経済社会理事会の機能委員会の一つとして1946年に設置され、政治、市民、社会、教育分野などの分野におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメントに関して、国連経済社会理事会に勧告、報告、提案を行っている。

CSWの第66回委員会開催に合わせて、今回、WCRP国際委員会は合同サイドイベントを対面とオンラインを活用して開催。ジェンダー平等の達成、女性・女兒に対する暴力の阻止に取り組むための、宗教指導者と国連上級代表によるハイレベル会合となった。

サイドイベントでは、アッザ・カラムWCRP国際事務総長が全体会議Iの進行役を務め、本イベントを宗教者と国連関係者が協働する意義について説明した。カラム事務総長は、ジェンダー平等を達成し、女

性に対する暴力を終わらせることは必要不可欠であり、そのためには社会全体の関与が必要であるとの認識を共有。多くの宗教団体や信仰に基づく組織、宗教指導者らがこの問題により効果的に取り組み、その活動を可視化させることが重要であるとの認識を共有した。

### 今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し、新しい熟語を作ります。

平我（へいわ）

5月も重要な行事があり、忙しくなりそうだが、自分から平和を意識し、実践することから平和への道を歩めたらと思う。

### WCRPの活動

- 《5月》
- 10日 G7広島サミット「宗教者による祈りとシンポジウム」(広島・カトリック職 町教会 世界平和記念聖堂／オンライン配信)
- 13日 青年部会発足50周年記念行事 祈りの集い(京都・蓮華王院三十三間堂)
- 20日 気候危機タスクフォース第1回会合(岐阜・真生会／オンライン併用)
- 23日 第26回評議員会(奈良・華厳宗大本山 東大寺 総合文化センター／オンライン併用)
- 26日 ストップ！核依存タスクフォース第2回会合(オンライン開催)
- 27日 平和研究所第3回所員会議・研究会(オンライン開催)
- 《6月》
- 2日 第44回理事会(東京・カトリック東京カテドラル関口会館／オンライン併用)
- 13日 青年部会第2回幹事会(東京・普門メディアセンター／オンライン併用)
- 20日 第26回評議員会(奈良・華厳宗大本山 東大寺 総合文化センター／オンライン併用)
- 23日 平和研究所第2回所員会議・研究会(オンライン開催)
- 23日 ACRP執行委員会(フィリピン・ダバオ／オンライン併用)
- 31日 総合企画委員会(オンライン開催)

掲載内容の無断転載を禁ず。